

図書館職員による「大学図書館改革問題懇談会」スタート

京都大学の図書館問題を検討するために、昨年末教官をメンバーとした「商議会専門委員会」が発足したが、これにつづいて2月13日（金）に、図書館職員による「大学図書館改革問題懇談会」がスタートした。3月20日（金）まで4回の会議が重ねられているが、だいたいつぎのようなことがきまった。

〔目的〕 新しい大学の図書館がいかにあるべきかを考え、改革案を作成し、その実現に努力する。

〔構成員〕 1. 京都大学の図書館職員および関心のあるひと。

2. 連絡員一会議の内容を部局に伝達し、また館員の意見をなるべくまとめ、会に反映させる。

人数 17名（各学部、教養、人研、化研、経研、数研、原子炉より、それぞれ1名、図書館より2名）

3. 世話人一会の進行・運営にあたる。

人数 7名 岸本年之（法） 高橋和子（教養） 竹内隆恭（農）
坂東 慧（数研） 広庭基介（文） 古原雅夫（医） 小国健一（図、仮）

〔会議の開催日〕 第1・3金曜日（月2回）

ロシア語学術雑誌（化学系）英訳版の共同購入計画すすむ

英・仏・独語逐号翻訳誌 Cover to cover translations として知られるロシア語雑誌翻訳版は、昨年8月当時のリストですでに200誌近くに達している。本館にも備付け希望があるが、購入のあい路は、その種類の多いこと、単価が高く（1種平均年間5～6万円見当）、かつ毎年の継続支出となることなど、おもに予算的裏付けの乏しいことが偽りない理由でもあった。

そこで、宍戸館長の発案により、①購入の手掛りとして範囲を化学系に限定する。②化学系各教室（および図書館）の共同負担とする（各講座・教室の年間負担額は1万円）、③希望の翻訳版は本館に一括備え付けるとの原則で、学内の化学系教室・講座代表約20名による化学系図書懇談会を昨年末発足させ、最近（2月17日）開かれた第3回会合で18種の化学系英訳版の購入希望をとりまとめた。

今後、購入・契約済みのものとの調整、支払など事務的には複雑な問題を蔵しているが、一つの新しい試みとして注目されよう。

京都大学学術雑誌総合目録・補遺1970年版刊行さる

これは自然科学と人文科学の両篇に分かれ、それぞれ和文と欧文とを含んでいる。既刊の各総合目録諸篇のサプリメントとなるもので、その後の新規備付雑誌を網羅している。今後この補遺版は逐年出される予定である。

一 会 議

図書館商議会専門委員会 第2回：昭和45年1月21日（水）、第3回：2月18日（水）

〔第2回〕 議題：部局図書委員会の諸問題について

前回議事報告の後、図書館商議会と部局図書委員会との性格的・機構的相似点について、商議会・委員会は評議会・教授会の Sub-Committee または総長・部局長の諮問機関であるかどうか、また全学的な図書館体系のビジョンを確立するとともに図書館（室）の機能を整